

米国金融政策（2023年11月FOMC）

政策金利を2会合連続で据え置き

2023年11月2日

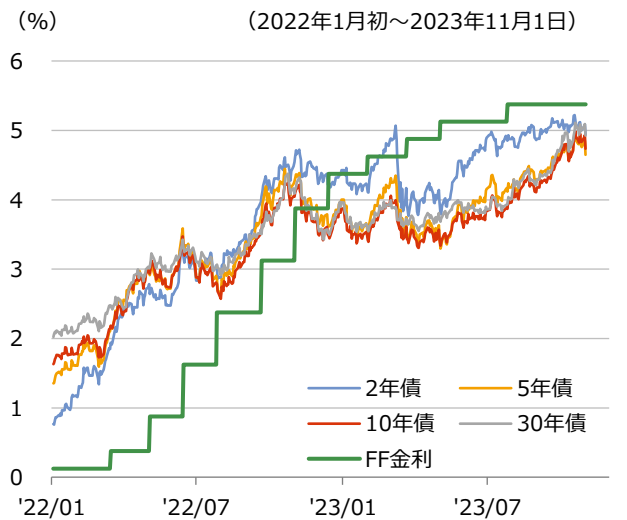
長期金利上昇が追加利上げの代替だが利上げ打ち止めを示唆せず

FRB（米国連邦準備制度理事会）は10月31日～11月1日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを5.25～5.50%で据え置くことを全会一致で決定しました。政策金利の据え置きは2会合連続です。また、国債やMBS（住宅ローン担保証券）の保有額縮小を計画通り実施していくことも再確認しました。

11月FOMCに先駆けて、複数のFRB高官は前回9月FOMC以降の大幅な長期金利上昇が追加利上げの代替となり得ると示唆していました。今回の声明文でも「金融環境・信用状況の引き締めは、経済活動・雇用・インフレの重しとなりそうだ」と、金融環境に言及しました。他方、声明文に利上げ打ち止めを示唆する文言は引き続きありません。パウエルFRB議長は「金融政策が十分に景気抑制的であると確信していない」と述べ、追加利上げの可能性を排除していません。また、議長は「焦点は金融政策がどのくらいの期間、景気抑制的であり続けなければならないかだ」と述べています。金融引き締め期間の長期化を示唆するとともに、早期の利下げ転換は明確に否定しました。

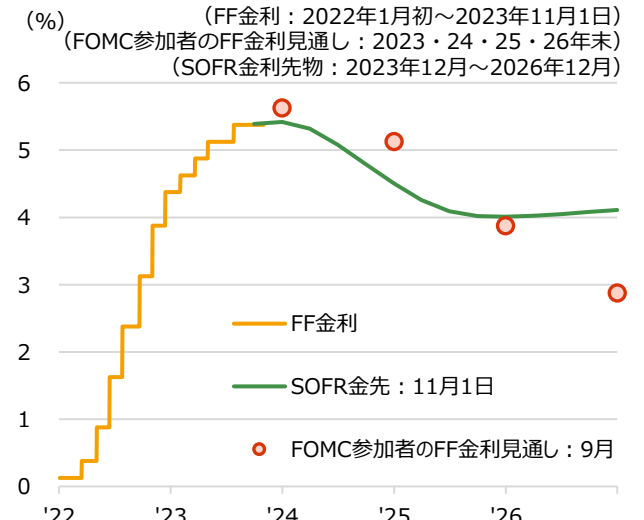
FOMC直前に発表された景気指標の下振れもあり、金利はFOMC後も全般的に低下しました。FF金利先物での追加利上げ期待は3割弱に留まっており、市場では利上げ打ち止めとの認識が優勢です。もっとも、FRBが利上げを明確に終了するかは、依然として雇用・物価指標を中心とするデータ次第です。

FF金利と米国債利回り



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
SOFR：担保付翌日物調達金利 (出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。